

人づくりまちづくり 情報誌

No.

79

令和6(2024)年
3月号

あくていぶ



わがまちたかつき
切り絵紀行

しもんじよばし
「下條橋からの展望」(原)
切り絵 作：生地 高芳(高槻市在住)

特集

人と人とのつながりで自助・共助のまちづくり

「あくていぶ」は行動的、活動的な心と心のふれあいを求めて名づけられました

人権の視点から自助・共助のまちづくりを考える

令和5（2023）年12月8日（金）、9日（土）の2日間にわたり、高槻市立生涯学習センターで、「人権を考える市民のつどい」（主催：高槻市、企画・運営：高槻市人権まちづくり協会）を開催しました。講演会と特別展示「災害と人権」、人権啓発作品入選作品展が行われ、約700名の来場がありました。



▲正木明さんの高槻版特別お天気コーナー

講演会

気象予報士・防災士であり、30年以上もの間、朝日放送の「おはよう朝日です」のお天気キャスターとして活躍されている正木明さんをお招きし、「人権の視点から自助・共助のまちづくり」をテーマにご講演いただきました。人気の正木さんの講演会ということで聴講希望者はとても多く、ほぼ満席状態で大盛況でした。

講演会の要旨

まず、昔と今では天気の問題が大きく変わってしまったということでした。すなわち、以前天気予報は生活情報が中心でしたが、今は命を守ることに直結する情報ともなり、災害時などでは、共助につながる自助を確立する為にも大切な情報とお話がありました。

講演では、初めて耳にする「気候正義」という言葉が印象に残りました。言葉の意味は気候変動が進むことで起こる破壊、不公平、差別をなくすことで、ここに人権の考え方が連動しているということでした。例に挙げられたのは、「先進国と途上国との間」での不公平感です。先進国が大量に出すCO₂の影響で温暖化が進んだことで海水面が上昇し、CO₂をほとんど出していないツバル（※）は国が水没しかかっています。このまま気候変動が進めばこのような不公平な状況が増加していきます。こうしたことから、私たちは目に見えない遠くの国の相手への「思いやり」という人権の視点が非常に大切だと、会場に訪れた方に優しく語り掛けられました。

※ツバル：南太平洋西部のほぼ赤道直下に位置する、9つの島からなる国

講演会の感想より

- この夏に経験した酷暑は、国連事務総長が口にした「地球沸騰の時代」を思わせました。特に、発展途上国では気候変動による危機の矢面に立ち、生計手段を失う人（農・漁業従事者）等は人命、生活、環境など様々なリスクにさらされていることを想像せざるを得ません。
- 今SDGsに掲げられている17のゴールは、企業や国の努力目標ではなく、私たち一人ひとりが見えない地球の誰か、未来の誰かを思い、他人ごととせず行動することが、ひいては私たちの人権を大切にすることだと学んだ講演会でした。
- 特に災害時においては、自助の大切さをわかりやすく話していただいた。一人でも多くの人が自らの命を守る行動の大切さを理解し、共助による支援を必要としている方々を救えるようにすることの大切さを改めて認識することが出来ました。

特別展示 「災害と人権」

日本は昔から災害の多い国でしたが、近年の地球温暖化の影響で、台風、豪雨等の規模も大きくなり、その被害も甚大なものとなっています。今年、1923年の関東大震災から100年という節目の年でもあり、さらに今後に想定されている南海トラフ地震も心配されています。実際災害が起こると、被災した方の多くは避難所での生活を強いられることになり、中には様々な困難を抱え、周囲からの特別な配慮を必要とする人もいます。

そこで、特別展示では「災害と人権」をテーマに「人権」という観点から災害時の人権問題、特に避難所での生活にスポットを当てて「配慮を必要とする人の困りごと」を知ること、人権に配慮した支援のあり方についてパネル展を行いました。



▲熱心に作品に目を通される来場者の方々

人権啓発作品入選作品を展示



▲絵画の部最優秀賞受賞作品

7月から10月にかけて募集した人権啓発作品は、市内小中学生・一般から作文326点、標語2,200点、絵画176点、計2,702点の応募がありました。部門ごとに最優秀賞、優秀賞、佳作が選定され、12月8日（金）、9日（土）の2日間にわたり生涯学習センター1階展示ホールに展示しました。9日（土）には入選者表彰式を行い、賞状と記念品が市長から渡された後、高槻市人権擁護都市宣言を会場に訪れた皆様と唱和しました。



人権啓発作品募集は、家庭や学校において、広く人権について考え、話し合う中で市民一人ひとりが「自分の問題」として捉え、お互いの人権を尊重し合う場づくりになることを目的にしています。

▲最優秀賞受賞者による人権擁護都市宣言

令和5年度人権啓発作品入選者

作文部門

入選	名前	作品名	学校名等
最優秀賞	レベッカタウン亜希子さん	忘れないで下さい。	阿武野中学校3年生
優秀賞	長野 颯さん	「ながればしのランドセル」をよんで	五領小学校1年生
優秀賞	加瀬川 葵さん	I'm Happy How about you	南大冠小学校6年生
優秀賞	森畑 心優さん	大切な人を守る勇氣	阿武野中学校3年生
優秀賞	近藤 凜奈さん	虹	川西中学校2年生
佳作	<ul style="list-style-type: none"> ▶五領小学校6年生 藤沢 祐里さん ▶第六中学校2年生 合掌 ひなたさん ▶第六中学校2年生 佐藤 史菜さん ▶柳川中学校1年生 木村 夕風帆さん ▶五領中学校1年生 角山 蓮さん 	<ul style="list-style-type: none"> ▶城南中学校1年生 城戸 元颯さん ▶川西中学校2年生 上村 有希さん ▶川西中学校2年生 奥山 凜さん ▶川西中学校2年生 宮本 理史さん ▶一般 川村 菜月さん 	

標語部門

入選	名前	作品名	学校名等
最優秀賞	清田 くるみさん	人権標語	清水小学校5年生
優秀賞	井上 凱翔さん	せおうもの	五領小学校6年生
優秀賞	信貴 琉生さん	インターネット上の人権侵害	北日吉台小学校5年生
優秀賞	香村 愛姫奈さん	人権標語	柳川中学校1年生
優秀賞	小野 陽大さん	違うから	五領中学校1年生
佳作	<ul style="list-style-type: none"> ▶如是小学校4年生 富高 侑梨さん ▶如是小学校4年生 藤原 奏さん ▶五領小学校6年生 福井 一太さん ▶富田小学校6年生 山本 隆登さん ▶柳川小学校5年生 渡辺 由菜さん 	<ul style="list-style-type: none"> ▶寿栄小学校5年生 中岡 海里さん ▶松原小学校6年生 坂元 美紀さん ▶若松小学校4年生 喜田 香羽さん ▶南平台小学校5年生 上平 樹希さん ▶第四中学校2年生 本城 絢美さん 	

絵画部門

入選	名前	作品名	学校名等
最優秀賞	河野 楓加さん	差別・いじめは悲しいです	五領中学校1年生
優秀賞	内田 光さん	せかいの友だちとなわとびしたいな	高槻小学校3年生
優秀賞	平野 こころさん	平和を運ぶ鳩	玉川小学校6年生
優秀賞	浅岡 美陽さん	世界のみんなで手を取りあう	真上小学校6年生
優秀賞	堀尾 彩佳莉さん	同じ	五領中学校1年生
佳作	<ul style="list-style-type: none"> ▶真上小学校6年生 加藤 杏さん ▶真上小学校6年生 高橋 桔平さん ▶真上小学校6年生 長井 奈花さん ▶真上小学校6年生 吉岡 喜生さん ▶第一中学校3年生 岸本 眞由子さん 	<ul style="list-style-type: none"> ▶第一中学校3年生 中前 遥月さん ▶柳川中学校1年生 山本 柚稀さん ▶五領中学校1年生 磯山 和哉さん ▶五領中学校1年生 山下 日南さん ▶城南中学校1年生 福山 結太さん 	

あちこち訪問

京都国際マンガミュージアム

(京都市中京区烏丸通御池上ル)



- 開館時間 10:30~17:30 (最終入館時間 17:00)
- 休館日 水曜日(祝日の場合は翌日、メンテナンス休館、年末年始)
- アクセス 京都市営地下鉄 烏丸線・東西線 烏丸御池駅2番出口より約徒歩2分
京都市営バス烏丸御池停留所下車すぐ ※駐車場無・駐輪場有

誰もが一度は読んだことがあり、とても身近な存在である「マンガ」(MANGA)は、日本の新しい文化として認知され、世界的にも評価が高く、多くのファンに今も愛されています。

訪れた「京都国際マンガミュージアム」は、博物館と図書館の機能を併せ持つ、国内初の総合マンガミュージアムです。昭和初期に建造された元龍池小学校舎の佇まいを残し、ノスタルジックな空気に包まれた館内に入るや、まず壁面に広がる総延長200mの書架「マンガの壁」に圧倒されます。当施設には江戸期の戯画(ぎが)浮世絵から明治・大正・昭和初期の雑誌、戦後の貸本から現在の人気作品、海外作品など多くの資料が保存され、その数は誰でも自由に閲覧できる約5万冊、地下に収蔵された約25万点、あわせて約30万点にもなります。2階にあるメインギャラリーの常設展示「マンガって何?」は、その歴史や、なんとなく読んでいるマンガの読み方のルールなどの気づきや発見を体験でき、マンガを学ぶ・マンガから学ぶ展示になっています。

アフリカにある54の国と地域のうち、フランス語圏は22か国。今回はそのフランス語圏の作品に焦点を当てた企画展示「アフリカマンガ展」(2023年10月26日~2024年2月18日)を訪ねました。

日本ではあまり目にする機会がないアフリカマンガ。フランスやベルギーのバンドデシネ(フランス語におけるマンガの総称)、アメリカンコミック、日本のマンガにもアフリカやアフリカ人が登場することはありますが「他者の視点」で描かれることも多く、マンガの世界でアフリカ人は「脇役」にすぎませんでした。アフリカ出身の作家が描いたマンガは、アフリカの神話、歴史、日常の話など「外から見たアフリカ」ではなく、彼らから見た視点で描かれたという大きな意義があり、新たに自分たちの話・文化として広がりつつあります。

北アフリカに位置するアルジェリアは、日本式マンガの創作が盛り上がりを見せている国で、それには特別な歴史的、社会的事情が関係しています。1990年代前半から2000年代初めにかけて「暗黒の10年」と呼ばれる悲惨な内戦状態を経験しました。あらゆる文化活動が停止状態になり、安全のために自宅に閉じこもって暮らさざるを得なかったこの時期に、人々の心に明るさをもたらし、とりわけ子どもたちに未来への希望や冒険の輝きを教え、絆の美しさや人間を愛する気持ちを育んだのは、盛んにテレビで放送された日本のアニメでした。今なお困難の多いアフリカ社会の中で、国境を越えるコミュニティツールであったり、人々の生きる喜びと未来への志向を支えている点で、日本のマンガがアフリカの文化に少なからず貢献しているといえます。



▲コスプレを楽しむ現地のイベントも写真で紹介

▲晴れた日には芝生でゴロンとマンガはいかが?
(画像提供: 京都国際マンガミュージアム)



▲案内頂いた学芸室員の大谷さん



▲展示風景

参加者の感想

- 訪れたのは冷たい雨が降る晩秋の一日でしたが、それでも多くの外国人が来館されていた。真剣に選定する目、読む時の柔らかな表情は、みんな一緒。これぞマンガの力!
- 元龍池小学校舎をリノベーションされた館、全国でただ一つの「マンガミュージアム」。床材に合わせて展示棚なども工夫したのが手に取るようにわかる。まさにSDGsの見本。どのフロアもマンガの壁に埋もれた夢のような空間はマンガ好きにはたまらない。カメルーン生まれ、日本育ちの「星野ルネ」さんの作品が特に目を引き、肌の色、言語、風習等を超え、ユーモアを交えてのマンガが持つパワーは異文化に鈍な私の感性を覚醒させた。時間がなくスミズミまで探索できなかったのが残念! マンガ好きの孫に「一緒に行こう」と声をかけたら、二つ返事で「OK」と笑顔が見られた(一ヶ月後実行)。

参加者の感想 つづき

- マンガは小学校時代から身近にあった。少女マンガの主人公が夢を追いかけていくストーリーに、親から「マンガばかり見て」と注意されながらも私の心の世界は広がっていった。マンガミュージアムを見学し、世界中のマンガ文化を見る機会ができ、マンガを通して教えられた人権意識を、家族や次世代で共有しながら、マンガを楽しみたい。
- 最近マンガに親しむ余裕もなく、新聞の四コママンガを読んで“クスッ”と笑うくらいだ。マンガミュージアムで、小学生の頃近所の友人たちと持ち寄って読んだ懐かしいマンガ本も見つかり、当手を思い出して心が温かくなった。パンフレットにあった館長さんのお言葉に「放っておけば消え去るマンガ、それを文化財としてよみがえらせ、これを守る場所であることが最終的な目標である」と書かれていた。ここには「楽しさ・暖かさ」があり、そして人を引き付けるマンガの奥深さを実感できる場所であった。館長さんのお言葉に大納得!!



マンガは「偏見」だらけなの？

京都精華大学マンガ学部教授 吉村 和真さん



近年、「アンコンシャス・バイアス」や「ルッキズム」など、多様性や平等を尊重するキーワードが耳目を集めています。自分の無意識レベルの思い込みや他人の見た目に対する凝り固まった価値観に、注意喚起がなされているわけです。

ただ、マンガ研究に従事する私の立場からすると、事はそう単純ではありません。というのも、マンガの表現や解釈は、作者と読者のあいだで共有された固定観念なしには成立しないからです。その理由を説明するには、「ステレオタイプ」と「偏見」と「差別」をきちんと区分する必要があります。この三つはいずれもダメだという前提でよく混同されがちです。しかし、論理的にはそれぞれ、次のように定義できます。

ステレオタイプ：他者の存在や情報を分類・認知する時の型、固定観念。例えば、年齢や性別、出身地や職業、血液型や星座などによる紋切型・画一的なイメージ。

例) 血液型のA型は几帳面で、B型はマイペースな人が多い。

偏見：ステレオタイプに基づいた知識や情報が特定の（主に否定的な）感情と合わさってできる、偏った見解。

例) B型はマイペースだから、チームワークを乱しやすい。

差別：偏見が特定の言動と結びつき、偏見を持たれた対象が不当な結果や抑圧を受けてしまう時の行為。

例) B型はマイペースで、チームワークを乱しやすいから、我が社では雇わない。

要するに、「ステレオタイプ」は認識の問題、「偏見」は感情の問題、「差別」は行動の問題、と整理できるわけです（ちなみに、私はB型です）。これをマンガにあてはめてみるとどうなるか。

例えば、誰が主人公で脇役か、どちらが善玉で悪玉か、どのカップルが結ばれるのかなど、登場人物の見た目や話し方からその役割や性格を見抜いていた経験が、きっとあなたにもあるでしょう。年齢や性別だけでなく、身長の高低やメガネの有無、髪の色や形、使用言語は標準語なのか方言なのか…。そう、マンガにとって「ステレオタイプ」と「偏見」は、登場人物への共感や世界観の理解にとって、むしろ不可欠な要素なのです。もし無くしてしまうと、逆にそこがぼやけてしまい、作品世界に没入できなくなるはずですよ。

でも、だからといって「自分にも固定観念があった」と落ち込んだり、「マンガには偏見を描いても大丈夫」と開き直ったりする必要はありません。そうした特質を持ったマンガだからこそ、普段は無自覚な「偏見」が不当な「差別」に繋がらないよう注意すべきですし、より良い「ステレオタイプ」に変えていくこともできるからです。

現にその種のマンガはたくさん存在します。紙幅の都合上、詳しくは省きますが、例えば、本特集の訪問記でも紹介されている京都国際マンガミュージアムの「アフリカマンガ展」に出てくる作品たちも、「マンガの黒人描写問題」について考える格好の素材でしょう。

マンガを読むことと人権を学ぶことは、想像以上に深い関係にあるのです。

地域が元気でいきいきと

高槻市人権まちづくり協会は、中学校区ごとに地区単位会を設立し、地域の様々な団体と連携しながら、人権講座や研修会など、市民が中心となり心豊かなまちづくりに取り組んでいます。

各中学校区地区単位会の主な活動を紹介します。

校区名	主な活動内容
第一中学校区	日 時 令和5年11月24日(金) ふれあいアップ講座 テーマ 音楽と自給自足の里山暮らし 今伝えたいこと 共 催 市立城内公民館
第二中学校区	日 時 令和5年7月2日(日) ふれあいアップ講座 テーマ oioiと楽しく手話体験 共 催 市立真上公民館
第三中学校区	日 時 令和6年3月20日(祝) 人権推進委員研修 テーマ 地域コミュニティ・地元のことを知ろう 主 催 第三中学校区地区単位会
第四中学校区	日 時 令和6年2月24日(土) 早春ふれ愛トーク2024 テーマ 部落差別も解消できないで恥ずかしくないか？ 主 催 第四中学校区地区単位会
第六中学校区	日 時 令和5年9月20日(水)～9月29日(金) 第13回ミニ平和展 テーマ 友愛・互助・平和 共 催 冠コミュニティセンター・冠中学校区地区単位会
第七中学校区	日 時 令和5年11月22日(水) ふれあいアップ講座 テーマ 三箇牧地区災害の歴史と今後の取り組み 共 催 市立三箇牧公民館
第八中学校区	日 時 令和5年10月19日(木)・20日(金) ふれあいアップ講座 テーマ 魂を奏でるピアニストによる演奏とお話 共 催 市立磐手公民館
第九中学校区	日 時 令和5年12月2日(土) ふれあいアップ講座 テーマ 自分の良さを引き出すコミュニケーション 共 催 市立北清水公民館
第十中学校区	日 時 令和5年9月23日(祝) 第20回たそがれコンサート 主 催 第十ブロック青少年健全育成連絡協議会・ たそがれコンサート実行委員会
阿武野 阿武山 中学校区	日 時 令和6年2月19日(月) ふれあいアップ講座 テーマ ペップトークを身につけよう 共 催 市立今城塚公民館
冠中学校区	日 時 令和5年10月21日(土)・22日(日) 人権啓発パネル展示 テーマ みんなともだち 共 催 冠コミュニティセンター・第六中学校区地区単位会
川西中学校区	日 時 令和6年3月3日(日) ふれあいアップ講座 テーマ 18才成人 大人と同じ権利を与えられたこどもたち 共 催 市立芥川公民館



▲第二中学校区地区単位会
身体全部を使って手話♪



▲第八中学校区地区単位会
右手一本のピアノ演奏に心地よい時間



▲芝谷中学校区地区単位会
いわさきちひろ平和パネル展示

校区名	主な活動内容
如是中学校区	日時 令和5年6月30日(金) ふれあいアップ講座 テーマ 心豊かに生きるためのお話 共催 市立如是公民館
芝谷中学校区	日時 令和5年9月20日(水) ふれあいアップ講座 テーマ 戦争へのプロパガンダ 共催 市立日吉台公民館・日吉台地区コミュニティ連絡協議会
城南中学校区	日時 令和6年2月17日(土) 福祉と人権のまちづくりを考える集い テーマ 誰もが自分らしく暮らせるまち～心のバリアフリー～ 共同主催 若松地区まちづくり推進委員会・市立春日ふれあい文化センター



様々な講演会、イベント等のご案内、本誌バックナンバーなど掲載
(<https://www.takatsukijinmati.org/>)



三校区合同人権バス研修を実施

各地区単位会が主体となって先進地や研修内容を検討し、今年度は下記のところを視察しました。

地区単位会(合同)	視察研修先(所在地)
第一中、第六中、冠中学校	鳴門市ドイツ館(徳島県鳴門市)
第二中、川西中、阿武野・阿武山中学校	ツラッティ千本(京都市北区)
第三中、第四中、如是中学校	盲導犬総合訓練センター(京都府亀岡市)
第七中、第十中、城南中学校	人と防災未来センター(神戸市中央区)
第八中、第九中、芝谷中学校、未組織校区	鳴門市ドイツ館(徳島県鳴門市)



▲鳴門市ドイツ館を訪問
第一次世界大戦時に捕虜となったドイツ兵を収容した「板東俘虜収容所」では、ドイツ兵の人権を尊重し、地域の住民と言葉の壁を越えて交流を深めた当時の様子が展示されています。

コラム

ウサギとカメ

人権啓発指導員 藤澤 善富

イソップ物語の中に出てくるこのお話は、読まれている国によって内容も教訓も違うということをご存じですか。

日本の話では『ウサギに足が遅いと馬鹿にされたカメは、かけっこの勝負をします。余裕で勝ると思ったウサギは、途中で居眠りを始めます。一方カメは、その間も着実に歩みを進め、ウサギが目をさますと、すでにゴールしたカメの姿がありました』。この教訓はウサギの立場では「油断大敵」、カメからすると「継続は力」です。

フランスでは『ウサギはカメを先に走らせ、ゴール近くで格好良く追い抜こうと考えましたが、ウサギのスタートが遅すぎたので、カメを追い抜けずに負けてしまった』という話です。この教訓は「過信は禁物」というものです。

イランでは『カメは弟のカメをゴールに立たせ

たので、ウサギがどれだけ早く走ってもカメに負けました』。教訓は「意味のない競争はするな」です。

インドでの話は日本と同じで『ウサギが昼寝をしてカメに敗れます』。日本と違うのは悪いのはカメです。理由は競争しているとはいえ、ウサギは病気で倒れているかもしれないのに、なぜ「大丈夫ですか」と一声かけなかったのかというものです。教訓は「人命尊重」です。

同じ話でも国によって、こんなにも内容や解釈が違います。自分の価値観だけが正しいと思いつむのではなく、自分とは違う価値観にも積極的に触れ、その違いから学ぶことで、人間としての幅ができていくのではないのでしょうか。



人権講演会 心の豊かさを求めて


ハンガリー人ピアニストのギュラさんと、日本人声楽家のみゆきさん夫婦が奏でる愛と癒しの音楽で、心豊かなひと時を…

- 出 演 ニヤリみゆきさん・ギュラさん
(ジーエムアートグレイス)
- 日 時 6月1日(土)
午後2時～(午後1時30分開場)
- 会 場 市立生涯学習センター 2階 多目的ホール
- 申込受付 5月7日(火)～定員に達するまで
- 定 員 申込順 300名




参加無料
要事前申込

保育有り
要事前申込
(3歳以上未就学児5名)



Instagram
始めました！

高槻市内の人権講座
情報を発信中！
QRコードを読み込んで、お友達追加してね。



災害と人権

このたびの令和6年能登半島地震において、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、全ての被災された方々に対しまして、お見舞いを申し上げます。

また被災された地域の一刻も早い復旧・復興と、被災された方々の穏やかな日常が一日も早く訪れますことをお祈りいたします。

SNS時代になり、災害時のデマは一層広がりやすくなりました。この能登半島地震の被災地においても、SNSを通して被災者の不安を煽るようなデマ情報が拡散され一層の混乱を招きました。その一方で、避難所における感染症発生や災害関連死の過去の事例から、応急的な住まいとして空いている一軒家やアパートを必要な人にマッチングするサイトが立ち上げられるなど、SNSが避難活動の一助となりました。

周辺のホテルの一部で、ペットとの同伴避難を受け入れるといった被災者に寄り添った避難場所が提供されるなど温かいニュースも飛び込んできました。

他にも珠洲市内の発災後250人が避難生活を送った小学校では、避難している小中学生が中心となり「ひなんしょ新聞」なるものが手作りされました。字の色を変えたり、一目見てすぐに高齢者にも大事なところがわかるように工夫がされた新聞は、先の見えない避難所での生活に、明るさと元気を届けています。書く方も楽しみ、もちろん読む人にとっても楽しみなものです。

それにしても、この子どもたちの「自分にできることはなんだろう」という無垢な心と、自分も辛い避難生活の中でも明るさを失わない逞しさ、あわせてSNSの正しい活用も「人権」という視点が欠かせないということをつくづく教えられました。

当協会は、昨年12月に「災害と人権」をテーマに特別展示を行いました。平時の頃から人と人とのつながりを大切に、誰一人取り残されないまちづくりを目指して、今後も人権啓発に取り組んでまいります。

編集後記

貧しくて家業を手伝うために、仕方なく「帰宅部」にならざるを得なかった子ども時代。親の目を盗んでは、近所の貸本屋に行き5円で借りたマンガを倉庫や友人宅で読みふけていた私。たまには新刊の「なかよし」や「りぼん」が買え、付録の「着せかえ人形」は特にお気に入り。古い服をつぶして布団や枕を作り、空箱のマイホームに階段やドアを取り付け…ああ、なつかしい。ケンカもしたけど、楽しかったなあ、あの頃。

時々もめていた大家族を一致団結させ、私の宝物となった三毛猫「コミ」は、貸本屋「三宅」にガリガリの姿で侵入してきた仔猫。

漢字を覚えたのも、言葉遊びが趣味になったのもマンガの恩恵大。今回の「マンガミュージアム」訪問は、遠い過去の自分にも出会えた貴重な一日だった。

アリガトウ マンガサマ



編集発行／一般社団法人 高槻市人権まちづくり協会 (☎647-7825)

「あくていぶ」は協会ホームページからご覧になれます。

<https://www.takatsuki-jinmati.org/> **高槻市人権まちづくり協会**

Follow Me!!



Instagram
takatsuki.jinmati

